

双葉町 津波被災地域住民意向調査 調査結果**双 葉 町****●調査の概要**

- 1.調査対象:両竹・浜野地区にお住まいだった世帯
- 2.調査時期:平成 26 年 11 月
- 3.調査方法:郵送による送付・回収
- 4.回答者数:57 世帯(配布世帯数 80 世帯) 回収率 71%

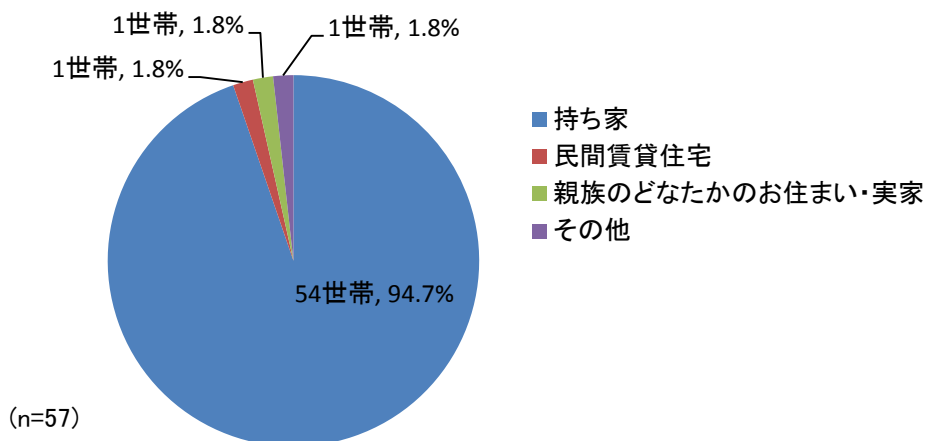
●回答者の内訳

- | | |
|-------------------------|---------|
| 大字中野:17 世帯(配布世帯数 33 世帯) | 回収率 52% |
| 大字中浜:20 世帯(配布世帯数 24 世帯) | 回収率 83% |
| 大字両竹:20 世帯(配布世帯数 23 世帯) | 回収率 87% |

被災時のお住まいについて

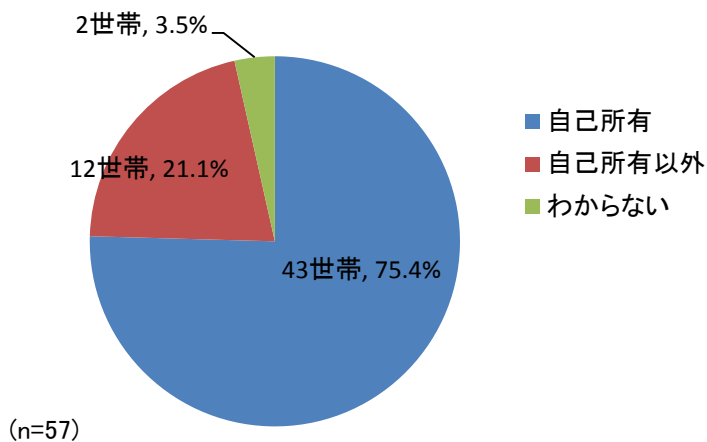
被災時の住宅の所有形態（問1 ⑤）

被災時の住宅の所有形態は、「持ち家」が 54 世帯（94.7%）で最も多く、次いで「民間賃貸住宅」「親族のどなたかのお住まい・実家」「その他」がそれぞれ 1 世帯（1.8%）でした。



被災時の住宅の土地所有者（問1 ⑤）

被災時の住宅の土地所有者は、「自己所有」が 43 世帯（75.4%）と最も多く、次いで「自己所有以外」が 12 世帯（21.1%）、「わからない」が 2 世帯（3.5%）でした。

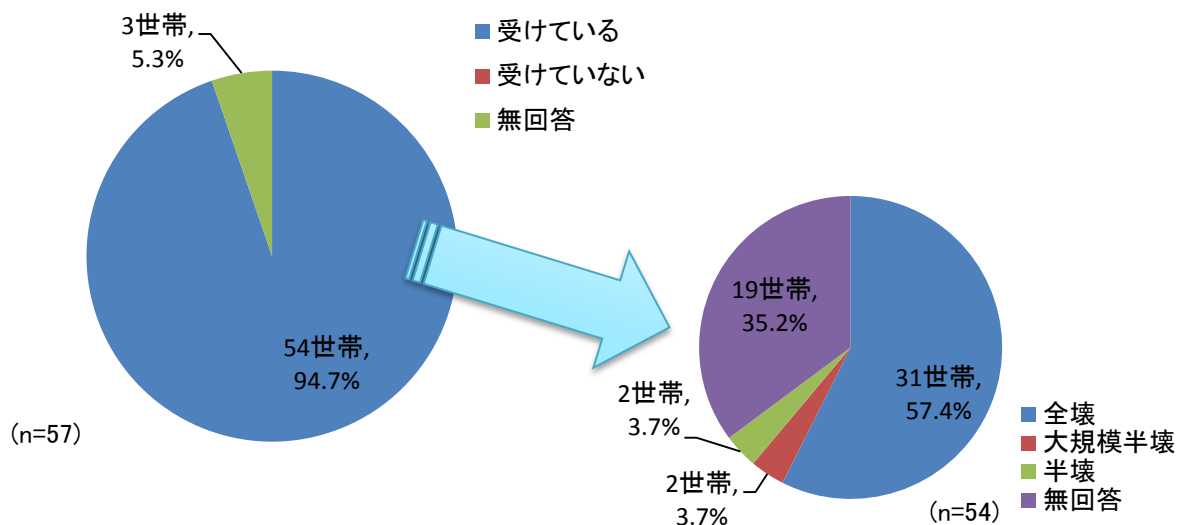


お住まいの被災状況

住宅の被害の有無（問 2-1）

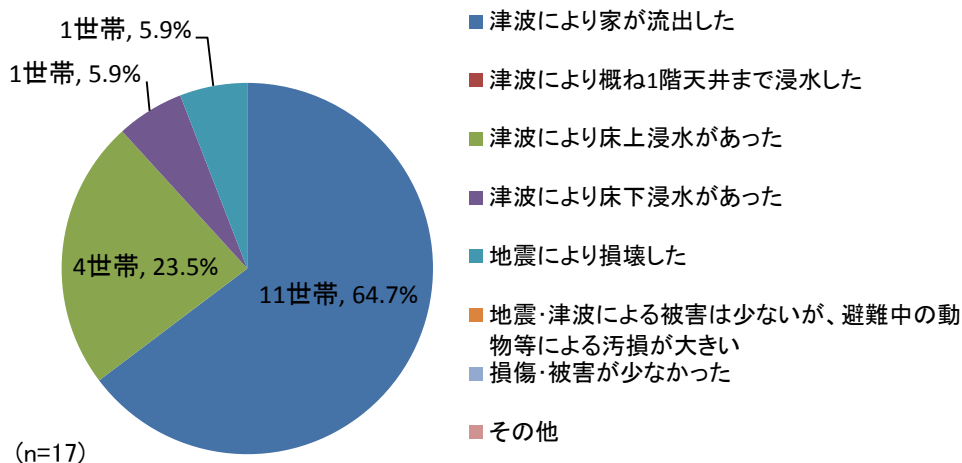
住宅の被害状況については、54 世帯（94.7%）が被害を「受けている」という回答でした。

また、「受けている」と回答したなかでは、「全壊」が 31 世帯（54.7%）と最も多く、次いで「無回答」が 19 世帯（35.2%）、「大規模半壊」、「半壊」が 2 世帯（3.7%）でした。



り災証明を受けていない方の住宅の被害状況（問 2-2）

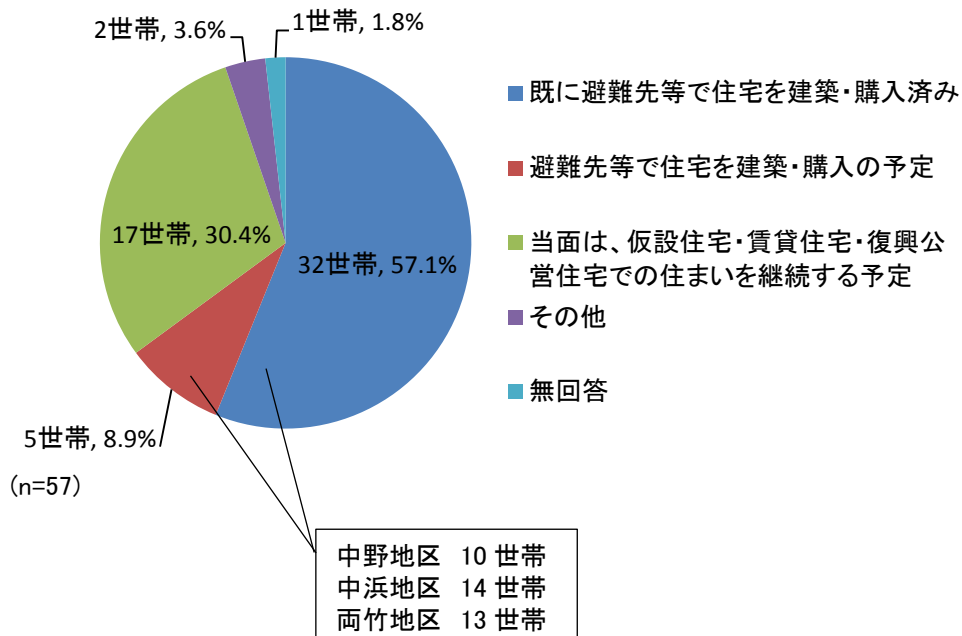
り災証明を受けていない方の住宅の被害状況は、「津波により家が流出した」が 11 世帯（64.7%）と最も多く、次いで「津波により床上浸水があった」が 4 世帯（23.5%）、「津波により床下浸水があった」「地震により損壊した」がそれぞれ 1 世帯（5.9%）でした。



当面の住宅についての考え方（問3）

当面の住宅についての考え方は、「既に避難先等で住宅を建築・購入済み」が32世帯（57.1%）と最も多く、次いで「仮設住宅・賃貸住宅・復興公営住宅での住まいを継続する予定」が17世帯（30.4%）、「避難先等で住宅を建築・購入の予定」が5世帯（8.9%）、「その他」が2世帯（3.6%）でした。

また、「既に避難先等で住宅を建築・購入済み」「避難先等で住宅を建築・購入の予定」と回答した37世帯の内訳は、中野地区 10世帯、中浜地区 14世帯、両竹地区 13世帯でした。

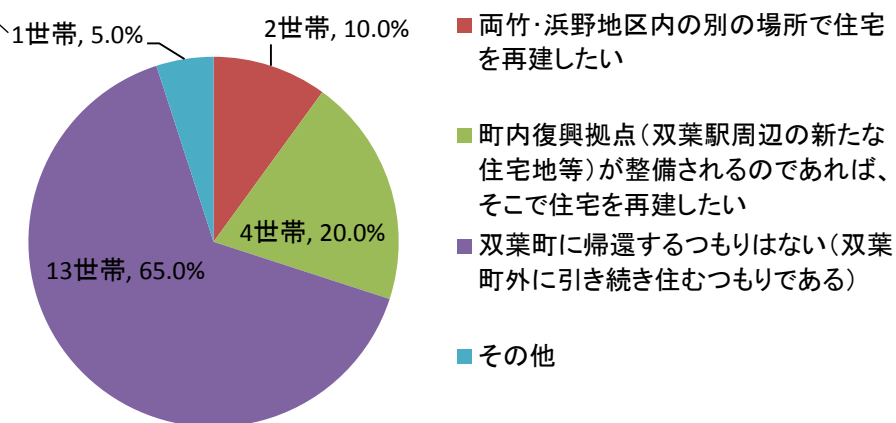


両竹・浜野地区の復興計画案について

中浜地区・住宅の再建意向（問 4-1）

中浜地区でお住まいだった方の住宅の再建意向は、「双葉町に帰還するつもりはない」が 13 世帯（65.0%）と最も多く、次いで「町内復興拠点が整備されるのであれば、そこで住宅を再建したい」が 4 世帯（20.0%）、「両竹・浜野地区内の別の場所で住宅を再建したい」が 2 世帯（10.0%）でした。

・現時点で判断つかない

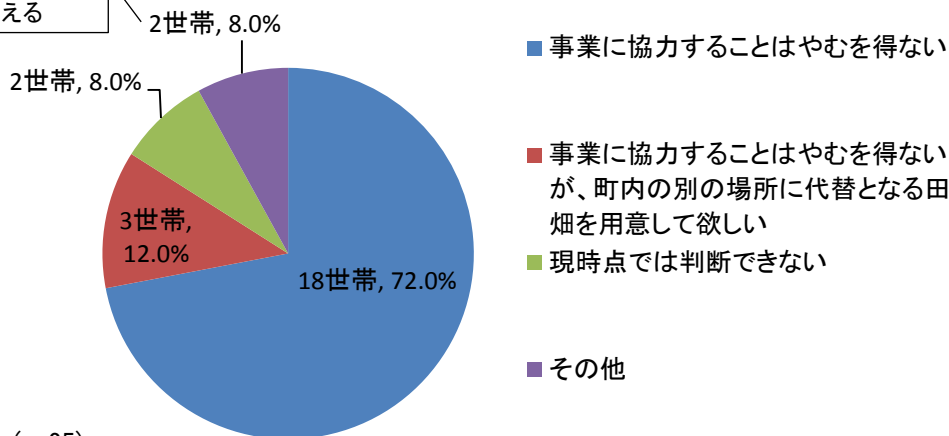


(n=20)

中浜地区・海岸堤防及び海岸防災林について（問 4-2）

中浜地区に田畑を所有する方の海岸堤防及び海岸防災林についての意向は、「事業に協力することはやむを得ない」が 18 世帯（72.0%）と最も多く、次いで「事業に協力することはやむを得ないが、町内の別の場所に代替となる田畑を用意して欲しい」が 3 世帯（12.0%）、「現時点では判断できない」と「その他」が 2 世帯（8.0%）でした。

・買い上げ希望
・現段階では 1.2.3. を
選択肢と考える

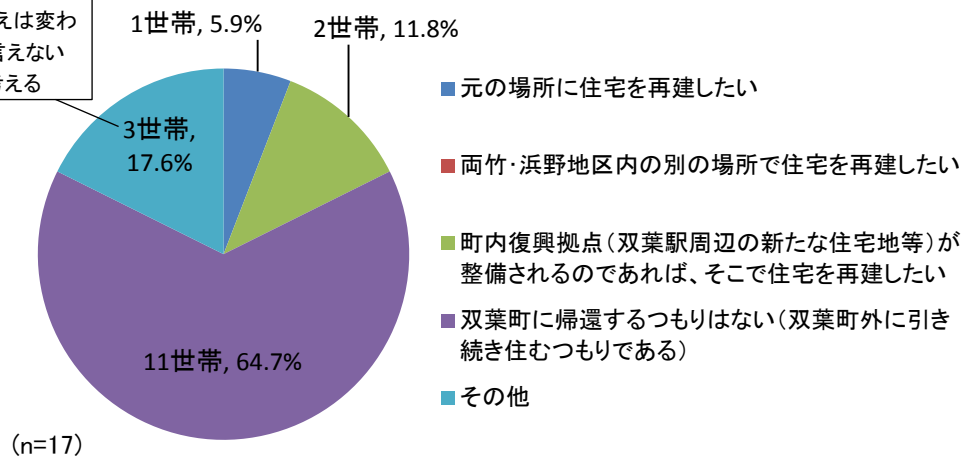


(n=25)

中野地区・住宅の再建意向（問 5-1）

中野地区にお住まいだった方の住宅の再建意向は、「双葉町に帰還するつもりはない」が 11 世帯（64.7%）と最も多く、次いで「その他」が 3 世帯（17.6%）、「町内復興拠点が整備されるのであれば、そこで住宅を再建したい」が 2 世帯（11.8%）、「元の場所に住宅を再建したい」が 1 世帯（5.9%）でした。

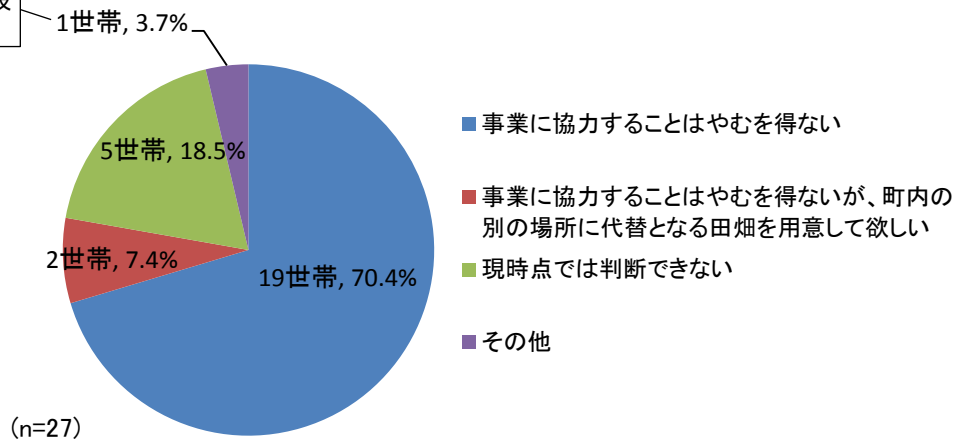
- まだ考えられない
- 帰還が可能となった時点で親子供がどういう状況におかれているかによって考えは変わると思うので何とも言えない
- 3.4.を選択肢として考える



中野地区・復興祈念公園及び復興産業拠点について（問 5-2）

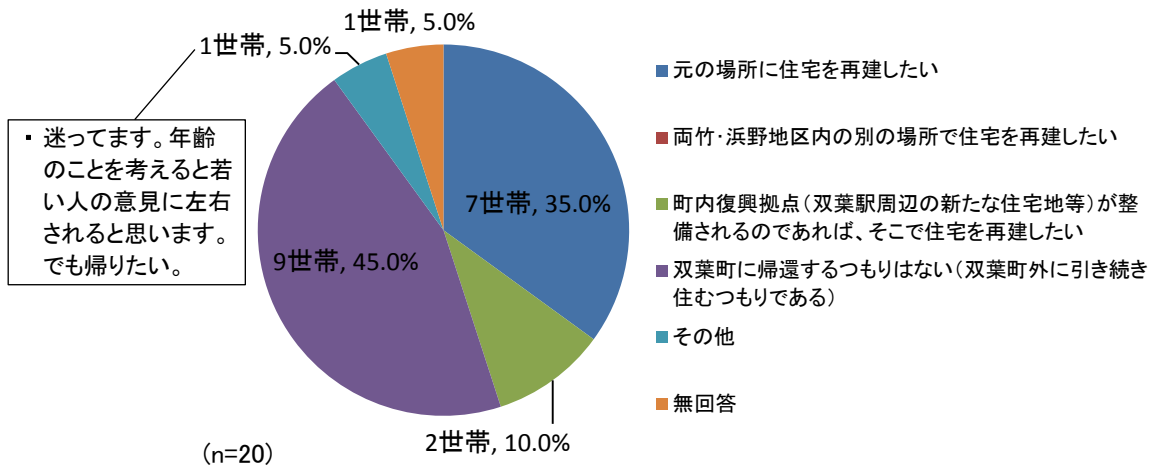
中野地区に田畑を所有する方の復興祈念公園及び復興産業拠点についての意向は、「事業に協力することはやむを得ない」が 19 世帯（70.4%）と最も多く、次いで「現時点では判断できない」が 5 世帯（18.5%）、「事業に協力することはやむを得ないが、町内の別の場所に代替となる田畑を用意して欲しい」が 2 世帯（7.4%）でした。

- 1.2.3.を選択肢と考える



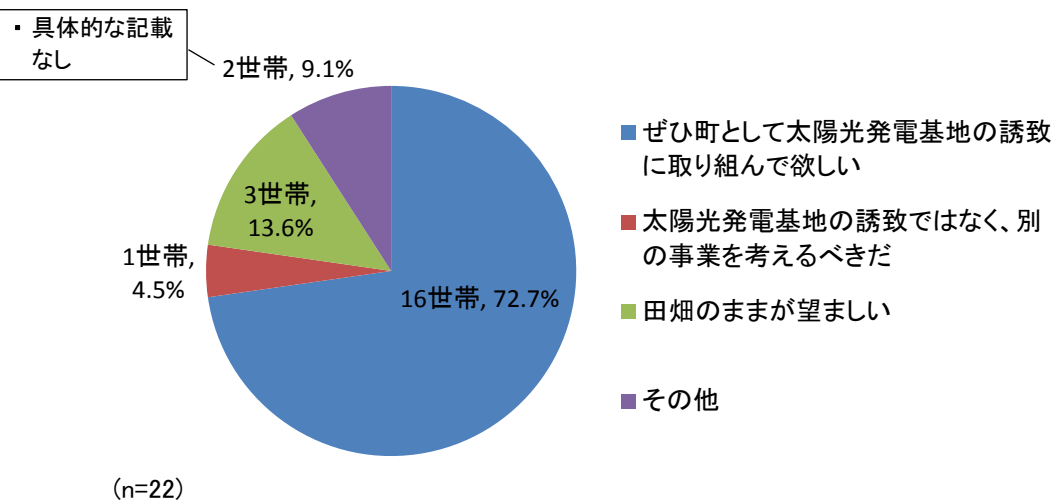
両竹地区・住宅の再建意向（問 6-1）

両竹地区にお住まいだった方の住宅の再建意向は、「双葉町に帰還するつもりはない」が9世帯（45.0%）と最も多く、次いで「元の場所に住宅を再建したい」が7世帯（35.0%）、「町内復興拠点が整備されるのであれば、そこで住宅を再建したい」が2世帯（10.0%）でした。



両竹地区・太陽光発電基地について（問 6-2）

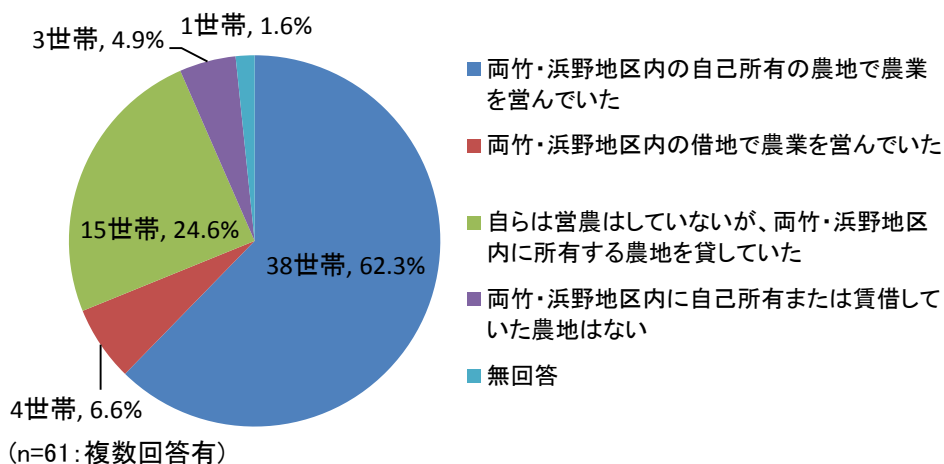
両竹地区に田畑を所有する方の太陽光発電基地についての意向は、「ぜひ町として太陽光発電基地の誘致に取り組んで欲しい」が16世帯（72.7%）と最も多く、次いで「田畑のままが望ましい」が3世帯（13.6%）、「その他」が2世帯（9.1%）、「太陽光発電基地の誘致ではなく、別の事業を考えるべきだ」が1世帯（4.5%）でした。



営農再開の意向について

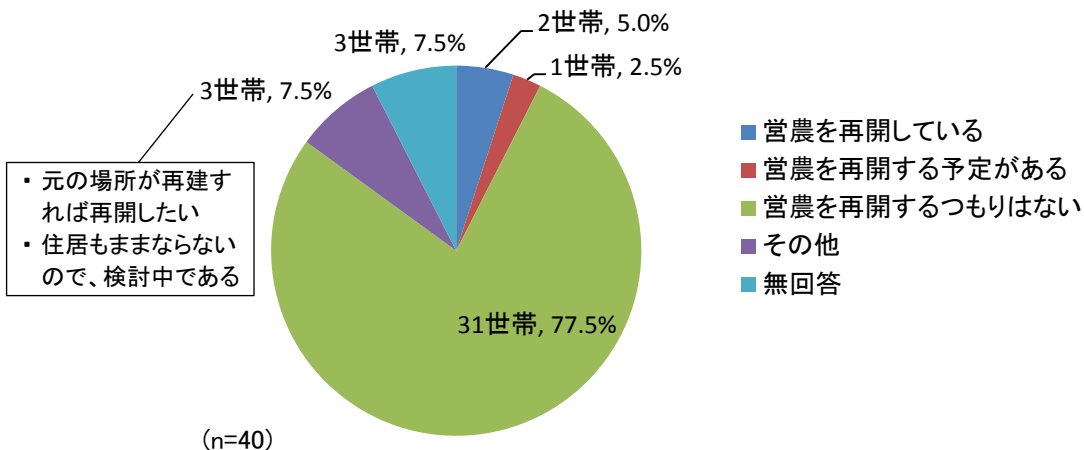
営農及び農地の所有状況について（問 8）

震災前の営農及び農地の所有状況は、「両竹・浜野地区内の自己所有の農地で農業を営んでいた」が38世帯（62.3%）と最も多く、次いで「自らは営農していないが、両竹・浜野地区内に所有する農地を貸していた」が15世帯（24.6%）、「両竹・浜野地区内の借地で農業を営んでいた」が4世帯（6.6%）、「両竹・浜野地区内に自己所有または賃借していた農地はない」が3世帯（4.9%）でした。



避難先での営農再開について（問 9）

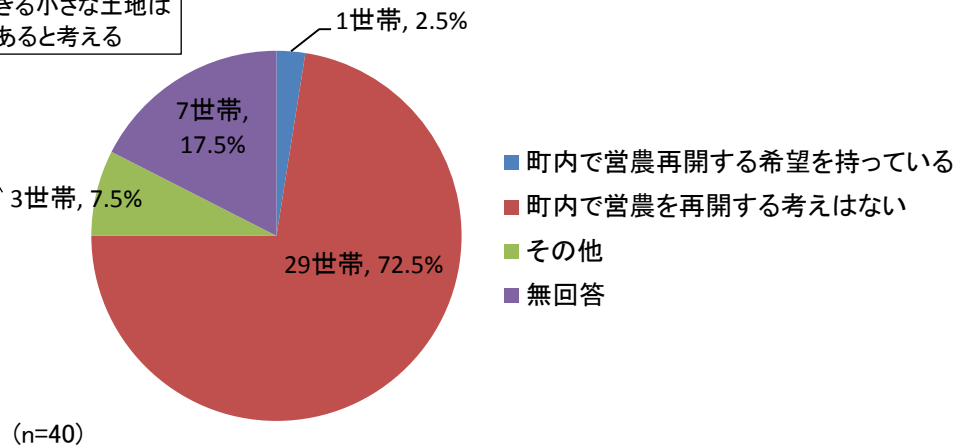
現在、避難先で営農を再開しているかどうかについては、「営農を再開するつもりはない」が31世帯（77.5%）と最も多く、次いで「無回答」と「その他」が3世帯（7.5%）、「営農を再開している」が2世帯（5.0%）、「営農を再開する予定がある」が1世帯（2.5%）でした。



双葉町内での営農再開希望について（問 10）

両竹・浜野地区で営農されていた方の営農再開希望は、「町内で営農を再開する考えはない」が 29 世帯（72.5%）と最も多く、次いで「無回答」が 7 世帯（17.5%）、「その他」が 3 世帯（7.5%）、「町内で営農再開する希望を持っている」が 1 世帯（2.5%）でした。

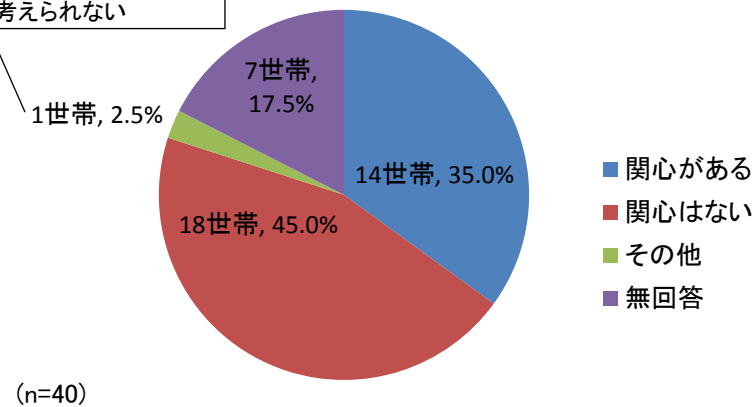
・ 帰還をするのであれば、
営農できる小さな土地は
必要であるとする



植物工場等の活用について（問 11）

両竹・浜野地区で営農されていた方の植物工場についての意向は、「関心はない」が 18 世帯（45.0%）と最も多く、次いで「関心がある」が 14 世帯（35.0%）、「無回答」が 7 世帯（17.5%）でした。

・ 関心はあるが、今は
考えられない



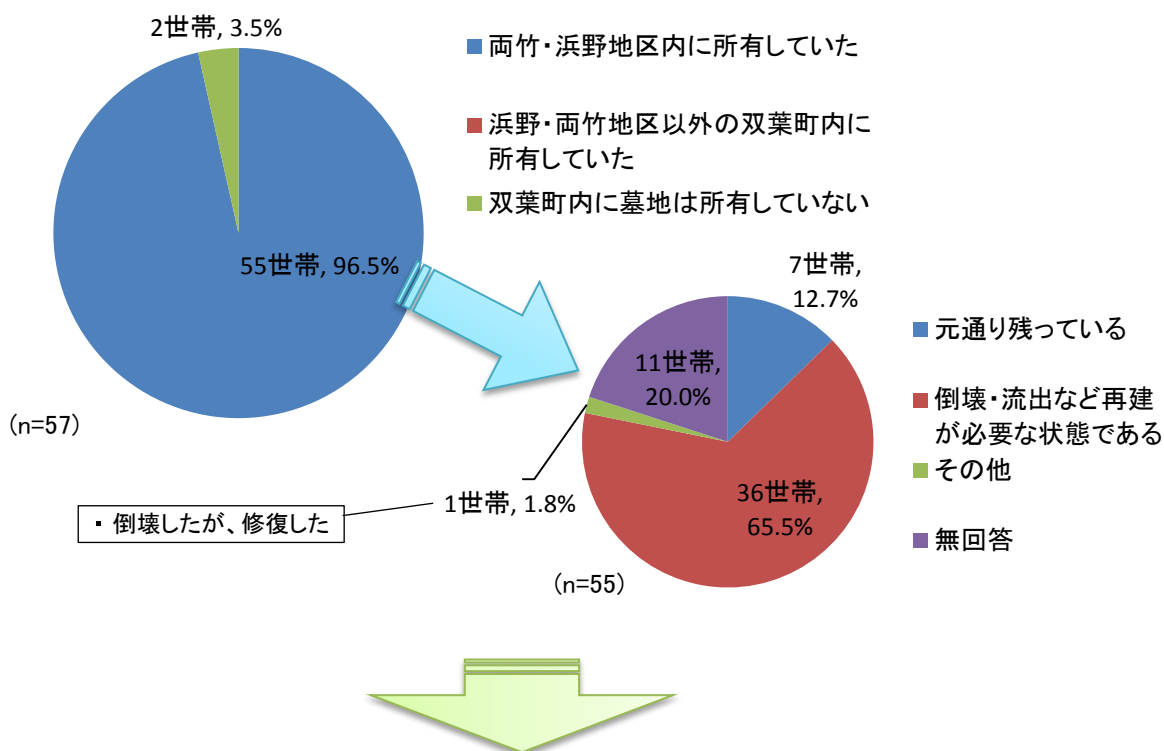
墓地について

墓地の所有状況について（問 12）

双葉町内での墓地の所有状況は、「両竹・浜野地区内に所有していた」が 55 世帯（96.5%）と最も多く、次いで「双葉町内に墓地は所有していない」が 2 世帯（3.5%）でした。

また、「両竹・浜野地区内に所有していた」のなかでは、「倒壊・流出など再建が必要な状態である」が 36 世帯（65.5%）と最も多く、次いで「無回答」が 11 世帯（20.0%）、「元通り残っている」が 7 世帯（12.7%）でした。

地区別の状況では、中野地区、中浜地区の墓地は、無回答以外すべて「倒壊・流出などで再建が必要な状態である」となっているが、両竹地区では 7 件が「元通り残っている」でした。



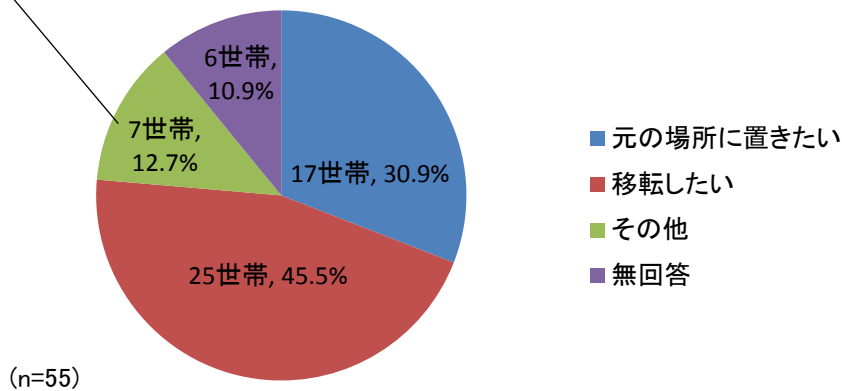
【地区別の内訳】

	中野地区	中浜地区	両竹地区
浜野・両竹地区内に所有していた	17	20	18
元通り残っている	0	0	7
倒壊・流出など再建が必要な状態である	14	16	6
その他	0	0	1
無回答	3	4	4
浜野・両竹地区以外の双葉町内に所有していた	0	0	0
双葉町内には墓地は所有していない	0	0	2

墓地の意向について（問 13）

今後の墓地についての意向は、「移転したい」が 25 世帯（45.5%）と最も多く、次いで「元の場所に置きたい」が 17 世帯（30.9%）、「その他」が 7 世帯（12.7%）でした。

- ・現在は基の場所。後には移転も考えている
- ・考えている所です
- ・今の状態がいつまで続くのか、年が年なので、今住んでいる所から近い方が良いのか迷っています
- ・新しい墓地を建てた
- ・他の場所へ移転した
- ・町としての動きに意向したい
- ・できれば移動したほうが良い

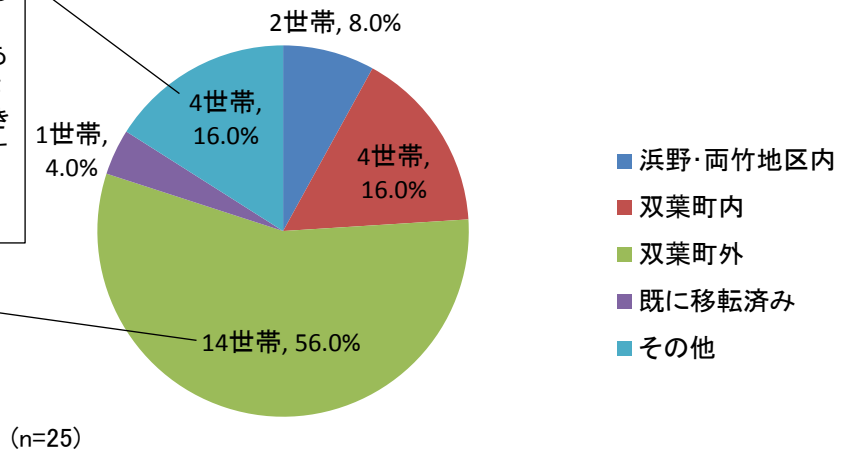


墓地の移転先について（問 14）

墓地を移転する場合の移転先についての意向は、「双葉町外」が 14 世帯（56.0%）と最も多く、次いで「双葉町内」「その他」が 4 世帯（16.0%）、「浜野・両竹地区内」が 2 世帯（8.0%）でした。

- ・わからない
- ・いわき市に家があるので近くに墓地を求めたい気持ちがありますが、双葉町でどこか共同墓地を作る事があるのであれば検討したい。作るのか作らないのか、その辺りをはっきりして頂けるとありがたいです
- ・居住地の近く
- ・お寺さんが再開予定の場所

- ・双葉郡内
- ・郡山市
- ・広野町
- ・いわき市
- ・埼玉県加須市
- ・名取市



自由意見（問 7、問 15）

住宅について

- 住宅再建案についてですが、震災直後から他県で住宅を持ったのですが、やはり何れは戻りたいと考えています。但し以前の住宅（両竹）での再建は考えていませんので、双葉駅周辺に住宅地が整備されているのであれば、そこで再建を考えたいですが、具現化が数年後となった場合、年齢的にも住宅購入資金および返済の面からも安易には決断できないし、いわき地区のように価格高騰も心配です。それに将来にわたり津波のリスクはある訳で6号線より東側であれば募集があっても応じないと思います。またご近所だった方たちの状況など今後の動向を見極めながら決めたいと思います。

復興計画案について

- 水田耕作について。中野の自宅に帰る度に水田の雑草が硬くなっている感じがします。もし水田を耕作するとなれば草は焼き切って耕せば（何回も）何とかなるでしょうが、水田の中に埋もれた農機具やガレキ等は見えないだけで膨大な量になると思います。それらは機械で取り除く事は不可能なので総て人の手で取り除くしかありません。南相馬地区では部落の人総出で（人足をかけて）ガレキを除去してました。3～4回やっても未だ色々出てくると話していました。浜野地区の水田は放射能汚染を考えると人の手でガレキを取り除くのは得策ではないと思います。ガレキを取り除かないと水田耕作は出来ませんので浜野の水田は永久に耕作には不可能と思います。
- 太陽光発電事業やる必要ない。
- 町内に帰還が可能となり再建できて以前のように生活が出来れば幸いと思う。しかし1,2年で再建できるなら帰還し再建したいと思いますが、これから私たちの年代に何年、何十年かかるか分からないことを今考えると町外でこのまま生活したいと思います。
双葉町という名所はずっと心に置き忘れることはできません。
田畑は、これから新たに機械や道具をそろえてまで農作業を再建する考えはないので、文書のとおり、これからの津波リスクを踏まえ事業に協力することはやむを得ないと考えます。
- 廃炉作業の途中で二次的・三次的災害が発生する心配がぬぐえない（例えば汚染水漏れや放射能汚染の拡大飛散）せつかく復興に向けて動き出しても、更に環境の悪化が進むことがあれば、すべて水の泡となる。だからとても今の不安が払拭き出来ない限り住もうという気にはなれない。勿論田畑を使う気にはなれない。しかし、もったいないから土地を利活用するなら自然エネルギー生産のために、使う事しか思い浮かばない。

- 今後何十年後に、同じような震災が発生するかは誰にもわからない事ですが、あとの世代、大震災が起きても二度と同じ事が繰り返されることがないように、海岸堤防の整備、海岸防災林の整備事業を十分に検討し工事を進めて頂きたいと思います。
- 住んでいた土地の場所に、世帯主の名前の入ったパネルを建てると言う事に関して、とてもよい考えだと思いました。私達がそこに住んでいた証を何でもいいので残して欲しいです。
- 1.バイオマスの活用か木工加工品の製造森林の大半を占める双葉町、木材を利用したバイオマス燃料を普及させてはどうか。また木工製品(椅子、テーブル、玩具など)を製造販売するという事は考えられないか。
2.両竹の登息域地域に浜野地区の集落の移転は考えられないか。
3.両竹公民館敷地内に井戸を掘っていただいて公民館を憩いの場としてはいかがでしょうか。
要望①両竹墓地の参道を拡幅し舗装には出来ないか検討して頂きたい。
②当分水道が引けないというのであれば、どこかに井戸を掘っていただきたい。
一時帰宅で家の中を掃除しても水が無く不便してます。
- いつもご苦労様です。今回両竹地区の復興事業の考え方を拝見させて頂きました。
特に浜地区は(地震・東電・津波)と津波は特に恐れ経験をしました。忘れる事のできない出来事でした。復興の面でもいろいろな大変な面を後世に残しておくべきだと思います。又、津波リスクの残る両竹は農地再生モデルとして太陽光発電基地の誘致や植物工場等の立地も前向きで検討して頂きたいと思います。
- 太陽光発電に伴う向上等の誘致により多くの若い人たちの働く場所をつくってもらいたい
- 双葉町の慰霊碑についてですが、元町長の名前だけ入っていて何のための慰霊碑なのか…せめて亡くなった人の名前を入れてくれるなら、そこに花をたむけ線香を上げる気持ちになるが、あの除幕式で元町長の名前だけだった事にがっかりして、それ以来あの慰霊碑に行った事はない。どうか名前を入れて頂けるとありがたい。
- 両竹地区の山林利用について。避難準備地区として利用できるのは両竹の山林だけです。この土地は住民の意見を尊重して頂きたい。私個人の意見ですが、新産業拠点の住宅共同墓地、両竹地区に住みたい住民など、その他色々な利用方法が見込まれる。
- 避難指示解除準備区域と帰還困難区域との間に隔たりのないまちづくりをすることを希望します。

- 復興事業には賛成だが、工事等を行う前に道路の整備が必要だと思う。
(例)6号線の全線開通後、交通量が増加しているため、移動に時間がかかるようになった。再度、災害等があったときに避難路の整備を行うべきではないか。
- 今後、除染等の工事が行われると思いますが交通が増加していくと思います。
交通の分別、一般車両と工事車両を別の路線、6号と浜街道に分けて通行を行えば交通渋滞が少なくなるのではないか。

墓地について

- 土地については復興計画に使用して頂いて良いが、お墓については双葉町に作って欲しい。
- 墓地の移転はなるべくしたくないが、高台とかのべつの場所への移転はしかたがない。
- いわき市に居るけど、墓地とか気持ちは双葉町に置きたいです。
- 墓地への参道を拡幅し舗装していただきたい。
- お寺が大熊なので栖葉か広野にお寺を建てるといっていますので、その所にお世話になりたいと考えている所です。もとの墓はそのまま置くつもりです。
- 墓石は両竹へ通えるうちはこのままでと考えているが、高齢になり通えなくなった時に移転も考えている。墓石の移転の補償期間を長期にしていれば幸いと思います。(移転する時期は10年先になると思うので)
- 墓地の事については、特に悩んでおります。私達の年代は、双葉に行くことは出来ませんが、子供達のことを考えると、いろいろと悩んでいる所です。墓地の復興はこれからの復興の一番大事なところのひとつだと思います。いつもご苦労様です。これからも双葉のために復興の面をよろしく願います。

その他

- 避難指示解除準備区域になっておりますが、両竹地区には帰る事は出来ません。帰りません。両竹地区の土地を利用して両竹の人に利益のある粋な事を考えて下さい。
- 30年以上も先のこと。生きていないと思うので、要望など考えない

- 避難して3年8ヶ月を過ぎた今、もとの双葉町浜野地区を求めることは実状できないことです。私たちに今出来ることは、1人ひとりの気持ちを今現状を受け止め、前向きに一步一步進むことだと思う。

- 中浜は津波で危険区域になると思う。あと30年も生きられない。双葉町好きだけど。

- 両竹・浜野地区の将来について心をくだしておられる方々心から感謝申し上げます。前にも記したように、やはり一番の心配は放射能の事です。ホットスポットも各所にあります。廃炉のゆくえも全て不透明です。復興の過程で状況が悪化しない事を祈るのみです。これからも皆様に色々お世話になります。よろしく願いいたします。

- 一時立ち入り30巡実施。清掃・廃棄家財搬出に没頭する。鍵を閉め我が家を後にするのは実に切ない気持ちである。福島復興停滞の記事を目にすると落胆の極み。復興の道程先行き見えず果てなく続く不安憔悴の現実。故郷への思い立ち切れない。生まれ育った「故郷」縁を切ることは出来ない。「一日千秋の思いで帰還渴望」「原発事故終わりのない惨劇」「ゴーストタウンのふるさとにならないか、死の町にならないか、自治体の存続懸念」「事故の風化」「災害過去形」「対岸の火災視」避難住民「棄民」見捨て濃厚な感じ。「ふるさと双葉」に早く戻りたい。願望である。復興の進捗状況を続報望む。